

仕事納め市長あいさつ

日 時 平成21年12月28日（月）16：30

平成21年の仕事納めに当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

職員の皆さん、今年1年間、大変御苦労様でございました。

さて、今年1年を顧みますと、百年に一度とも言われる世界同時不況により、我が国の景気は、1月から3月期の実質GDPが戦後最悪のマイナス成長を記録するなど、かつてないほど急激に悪化し、雇用情勢につきましても、7月には、完全失業率が過去最悪を記録するなど、極めて厳しい状況に見舞われました。

これを受け、国は、景気刺激策として、定額給付金の給付を決定し、本市においても、その給付事務に取り組んだほか、県の「ふるさと雇用再生特別基金」を活用して、地域コミュニティの更なる機能強化を図るため、各地域に地域推進員を配置するなど、各種の地域活性化・生活対策、緊急雇用対策を積極的に展開いたしました。

こうした緊急対策により、5月には、日銀が、景気判断を、2年10か月ぶりに上方修正し、ようやく明るい兆しも見え始めたかと期待を抱いていたところ、今度は、新型インフルエンザが国内発生し、現在も、猛威を振るっています。さらに、11月になって、本市の中堅企業である穴吹工務店が会社更生法適用というショッキングなニュースも飛び込んできました。

さらに、8月に行われた衆議院議員総選挙の結果、実に54年ぶりの本格的な政権交代が現実のものとなり、大幅な政策変更が実施・検討されるなど、我々、地方自治体を取り巻く環境は、例年にも増して、激しく変化した年でありました。

このような状況において、本市では、昨年4月にスタートさせた「第5次高松市総合計画」と、その実施計画に位置付けている「第1期まちづくり戦略計画」が2年目を迎え、新たな事業の着手も含めて、引き続き積極的に、まちづくりに取り組んでいるところです。

この計画では、目指すべき都市像を「文化の風かおり 光かがやく 瀬戸の都・高松」と定め、また、「心豊かな人と文化を育むまち」などの6つのまちづくりの目標を掲げております。

まず、1つ目の「心豊かな人と文化を育むまち」におきましては、本市では初めての小中

一貫教育校となる高松第一学園の、「高松第一中学校」が開校し、続く「高松第一小学校」および「新番丁小学校」開校に向けた整備や、環境に配慮した校庭の芝生化、また、来年開催される瀬戸内国際芸術祭の準備やサンポートホール高松開館5周年記念事業の開催など、学校教育の充実や文化芸術活動の推進に努めました。

次に、「人と環境にやさしい安全で住みよいまち」におきましては、近年の地球規模で進む地球温暖化への対策として、太陽光を利用した施策・事業の推進に加え、新たに「高松市地球温暖化対策実行計画」の策定に向け取り組んだほか、中央公園の芝生広場を復元するため、900人を超えるボランティアの方々の参加をいただいて「中央公園芝生化大作戦」を実施するなど、人と環境にやさしいまちづくりを進めてまいりました。

また、本年も、3年連続で渇水に見舞われ、早明浦ダムの上流域では、5月と9月の月間降水量がいずれも過去最少を記録する状況において、夏季と秋季の2度にわたる香川用水の取水制限は、延べ137日間に及び、過去3番目の長さとなりました。幸い、台風などの降雨により取水制限は解除されたものの、更なる対策の必要性を痛感しております。

このようなことから、「我が家の水がめづくり」事業の一環として、「節水キャンペーン2009」に取り組んだ結果、第3期分の本市全体の水道使用水量は、平成20年度の同時期と比較して、約3.2パーセント減少できました。このほか、災害時に市職員が最寄りのコミュニティセンターや避難所に直接参集する、災害時指定職員制度の創設など、安全で安心して暮らせる環境づくりに努めました。

次に、3つ目の「健やかにいきいきと暮らせるまち」におきましては、子育て支援の促進のための子育て支援総合情報発信事業や、新たに、就職が困難な母子家庭の生活の安定等を図るため、母子家庭無料職業安定所を開設するなど、子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりを進めました。また、新型インフルエンザの流行に際しては、相談窓口の設置や「高松市新型インフルエンザ対応マニュアル」の全面改訂、ワクチン接種費用の減免等の対策の強化に努めたほか、新病院の整備に向けた取組など、市民一人一人が健やかに暮らせる環境づくりを推進しました。

次に、4つ目の「人がにぎわい活力あふれるまち」におきましては、歴史的な観光資源等を活用し、地元市民ツアープロデューサー達が案内する「たかまつ松平藩まちかど漫遊帖」など、地域性豊かな観光資源の創出を図るとともに、本市の知名度の向上と効果的な情報発

信を図り、人が行きかう多彩な交流を促進するため、国際会議の誘致活動に取り組んでおり、来年には、日韓観光交流の促進を図るための「第25回日韓観光振興協議会」を、また、再来年には、盆栽を始めとする地元産業の振興や国際文化の交流を図るための「第11回アジア太平洋盆栽水石大会」を、本市で開催することが決定されました。

また、瓦町周辺の商店街に活気を取り戻すための活動交流拠点「ブリーザーズ スクエア トキワ」を整備して、最新の情報提供や賑わい創出事業を行うなど、まちの賑わいづくりにも努めました。

次に、5つ目の「道州制時代に中枢拠点性を担えるまち」におきましては、将来にわたって魅力ある美しいまちづくりを進めるため、「たかまつ美しいまちづくりシンポジウム」を開催し、広く市民の皆様の御意見をいただきながら、景観の形成や保全と環境美化の両者を一体的に推進する全国的にも数少ない「美しいまちづくり条例」を制定したほか、昨年策定した「高松市都市計画マスタープラン」で、本市の目指すべき将来都市構造としてお示しした、「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現に向け、効果的な土地利用の方策の検討や、快適で人にやさしい都市交通の形成を目指した新たな都市交通システムの導入検討などに努めました。

最後に、6つ目の目標「分権型社会にふさわしいまち」におきましては、本市における自治の基本理念や、基本原則などを定めた「自治基本条例」が、先の12月議会で可決され、市制施行120周年記念日である来年2月15日から施行することとしております。今後、この条例に基づき、市民主体の自治の実現を図っていきたいと考えています。

また、本市を中心市として、土庄町、小豆島町、三木町、直島町および綾川町の1市5町を圏域とする「瀬戸・高松広域定住自立圏」を掲げ、本年3月に市議会において中心市宣言を行うとともに、関係町と具体的に連携する事業の取りまとめなどを行い、先の12月議会で可決され、いよいよ瀬戸・高松広域定住自立圏の形成に関する協定を締結する運びとなったほか、行財政改革計画のより一層の推進を図るため、業務の総点検の一環として、香川県内では初めての事例となる「事業仕分け」を実施するなど、社会の変革に即応した行財政運営に努めてまいりました。

以上のような多くの施策・事業を、厳しい行財政環境の中ではありますが、計画的、効果的に推進することができましたのも、職員皆さんの日ごろのたゆみない努力のたまものであ

ると感謝いたしております。

迎える新年は、本市が明治23年に全国で40番目の市として市制を施行して以来、120周年の節目を迎える記念の年であり、世界に誇る多島美の瀬戸内海を生かした国際的な芸術の祭典「瀬戸内国際芸術祭」や民間主導の国際的な音楽コンクール「第2回高松国際ピアノコンクール」も開催されます。これらの催しには、国内外を問わず大勢の方が訪れますことから、本市の特性や魅力を、世界に向け大いにアピールするとともに、更なる地域の活性化にもつなげてまいりたいと考えています。

我が国のみならず、世界的に大きな変革の波が押し寄せている状況において、また、「地方が主役」となる分権型社会において、地域力を高めながら、持続可能な「新しい高松市」を築いていくためには、職員皆さんの熱意と英知が不可欠であります。従来の考え方や手法にとらわれず、刻々と変化する社会情勢などを敏感にキャッチし、新たな発想と、的確な判断による取組を、全職員が一丸となって、進めていただきたいと思います。

明日からは、年末年始の休暇に入ります。ひとときの休暇ではありますが、どうか、ゆっくりとくつろがれ、御家族の皆様とともに、健やかで良いお正月をお迎えください。

なお、業務の関係から、年末年始に勤務される職員の皆様方におかれましては、大変御苦労ではございますが、どうかよろしく願いいたします。

来るべき2010年、平成22年が、高松市にとって、また皆様方にとって、幸せ多き年となりますことを願って、仕事納めのごあいさつといたします。